

ちいさな証

神様の思いとひとつになって

脇山多恵子

スイス日本語福音キリスト教会会員



スイスで生活するようになり数々の病が与えられてから26年目を迎えることができました。こんなに長い間病気と付き合い生かしていただけていること自体、神様の御手による働き以外の何物でもないことを感じずにはられません。

弱く貧しい信仰しか持ち合わせていない私をここまで忍耐し守り続けてくださったことを思うと神様の前に感謝しひれ伏すことしかできません。

御言葉の学びやたくさんの訓練を通して神様の方法を知って、神様の計画がどれほどすごいものであるのかを教えらるる度に、人には測り知ることのできない想像をはるかに超えられたお方がこんな私をも造ってくださり、愛してくださっているということが、その上で自分の御子をさえ惜しむことなく身代わりとして、十字架に付け、罪の代価を無償で支払ってくださり人の努力ではなく、唯信じるという恵みによって救いの道を用意して、死と罪という滅びの道から解放し、永遠の生命を与えてくださり、もう一度、聖であり義であるお方に近づくことができるようにしてくださいました。

一人でも多くの人を救うために今も生きて働いておられる大いなる神様が共にいて導き続けてくださっていることを思うと喜びで満たされます。だからこそ義務ではなく神様のために神様が喜んでくださることをしたいという思いが湧き上がってくるのです。

神の国である天に向かうまでの信仰生活には多くの試練があります。たとえこれからどのような試練が襲ってきたとしても必ず共にいてくださるし、助け出してくださいという土台の上に立って固く信じるならば何が起ころうと揺らぐことなく歩むことができます。

試練は私達をよりイエス様に似た者に変え、御国にふさわしい者として成長させるためのものであり、また、物や自分ではなく唯一絶対のお方である神様に全幅の信頼をおいてすべてを明け渡し委ねることを学び、主に従うことが最高最善の道であり、天の御国に導き入れられるその時を楽しみに待つことができるようになるために必要なものです。

試練を通して学べることはたくさんあります。自分が経験してみても初めて見えてくる世界があります。

人は苦しみは好きではないですし、できることなら避けて通りたいと思ってしまうのですがそれを主によって乗り越えさせていただいた時、詩篇119篇71節にもあるように、『苦しみ会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれでああなたのおきてを学びました。』と言うことができるようになります。

私はスイスでの生活において一人であることが多く、辛い時苦しい時なんでも誰か助けてくれないかな～と人に頼りたくなることが何度もありました。けれどももしその時、自分の思う形で助けが与えられていたら本当の意味で主に頼るといことがどういうことであるのか理解することが出来なかったと思います。

日々激痛の苦しみの中で自分のことすら満足にできなくなりその上、人を頼ることもできないそういう状況を与えられたからこそ主の方向をしっかりと向いて心の底から神様に『助けてください。』と叫び求めることができるようになりました。



人は知らず知らず背負う必要のない荷物を持ち、辛く苦しい思いをすることがあります。でもそれに気付かせてもらえるのも試練ですし、その荷物を私のもとに持って来なさいと言ってくださるイエス様のところへ行きすべてを降ろした時、深い愛に包まれて平安が与えられ、安らぐことが出来ます。

信仰生活において大切なことは『主に信頼し、主の前に静まり、主の時を待ち望むこと』。人の目に遅く思えることがあっても神様は決して遅れるということのないお方です。

どのような絶望であっても助けることのおできになるお方、決して見捨てることなく疲れた心をいやし共に支え続けてくださるお方、天地を創り良い物で満たしてくださる全知全能であるお方、このお方に望みを置いてこれから主の愛と恵みの中、主にすべての栄光を帰することができるように主をほめたたえつつ神様の思いとひとつになって生かされていくことができるように、そして日々心を新たにしてお仕えすることができるよう祈り求めていきたいと思ひます。

